

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270103429		
法人名	医療法人 今村		
事業所名	グループホーム桜 うぐいす棟		
所在地	長崎市 網場町500-1		
自己評価作成日	令和3年12月20日	評価結果市町村受理日	令和4年4月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構		
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内		
訪問調査日	令和 4年 3月 14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム桜は、経営母体が医療法人の為、医療、看護面でのサービスが充実しており、入所者様が重度の状態になられても、ご家族の希望、要望により、医師、看護師、介護職が連携を取りながら、最期まで日常の生活が送れるよう、支援させていただきます。ホーム内では、入所者様一人一人が、生き生きと生活して頂くよう、日中のレクリエーション、散歩等を行い、介護予防にも力を入れています。又、好きな物を食べるという事が、生きる楽しみにつながるという観点から、通常の食事以外でも、個々の好きな食べ物、味付けに対応できるよう、努めています。「一人一人を大切に、一人一人に優しく」という職員の行動指針の元、日々のケアに努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員は、利用者が心身共に健康で楽しく生活できることを目標とし、生活歴や日常会話の中から利用者の得意分野を引き出し、日々の支援にさりげなく反映している。介護計画の実践状況や日々の記録、評価の内容には利用者の様子や思いが表れており、次の支援に役立つ情報となっている。筋力維持や地域との繋がりを目的とした散歩は毎日の習慣として、自力歩行が困難な利用者も車椅子やストレッチャーを使用し、一緒に出掛けている。日差しを浴び、風を感じることで自然の素晴らしさや生きていることを実感できるようにと支援する職員の姿勢に、利用者の生活をより豊かなものになりたいという心遣いが表れている。急性期と終末期における家族の意向調査を丁寧に行う様子からも、理念に基づいた支援であることが見てとれる。家族と共に利用者の尊厳を最期まで大切に支援に努めるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「一人一人を大切にし、一人一人に優しく接します」の理念を大切に、日々の実践に努めています。」又、言葉遣いに気を付け、利用者様の意志を尊重し、優しく思いやりを持って接するよう声掛けを行っています。	設立当初からの理念を継承している。理念と行動指針を職員の動線上に掲示し、朝礼や申し送りの際に唱和している。職員は、ゆったりとした雰囲気の中で利用者や接する中で理念の具現化に取り組んでいる。利用者一人ひとりを尊重しニーズを把握し、楽しみごとを個別ケアに繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍により、運動会の見学は行えていないが、散歩時に地域の方との挨拶は出来ています。しかし、感染予防により会話等の交流には注意しています。	コロナ禍により地域行事に直接参加することはできなくなったが、以前から交流があった学童クラブとは敬老会やクリスマス会にプレゼントを交換している。利用者の健康のため毎日のように続けている散歩は、感染予防を徹底しながら継続しており、近隣住人と友好な関係を築いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナの影響で、地域の方々との交流である、クリスマス会や、敬老会は現在中止で、落ち着いてきたら再開する予定です。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在コロナの影響により、直接的な会議は行えていないが、民生委員の方や福祉総務課の方の意見書を頂き、議事録に残し、閲覧出来るようにする事で、サービス向上に活かしています。	新型コロナ禍にて書面での運営推進会議を開催している。規定メンバーに資料を送り、要望や意見を回収後に会議録を作成している。ホーム内での転倒事故を伝えた際、メンバーから注意喚起の意見があり、職員でサービスの内容を検討し、質の向上に繋げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	2カ月に1回、福祉総務課に運営推進会議の意見を頂き、協力関係を築いています。	利用者に関わるサービスや加算など、市の担当者と電話やメールなどでやりとりを行っている。地域包括支援センター、担当課とも連携を図っている。介護や新型コロナ感染予防等、最新情報は随時メールで受け取っている。市のオンライン研修会に参加し、サービス向上に活かしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアルを作成し、研修、勉強会の中で注意喚起しています。それにより、常に意識向上出来ています。	身体拘束委員会があり、資料を全職員に配付し、拘束をしないケアの共通認識を図っている。利用者が不穏になった場合、看護職員が手を取り寄り添うことで、不安や混乱の要因を取り除くケアに取り組んでいる。帰宅願望がある場合も職員が寄り添い散歩等で対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	虐待防止マニュアルを作成し、虐待防止法やケアの原則を念頭に置いて毎日のケアに努めています。利用者様の行動を制限するような言葉が出ていないか、全体会議でも話し合っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要があれば対応していきたいと思ます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設見学、入所前に契約内容を口頭で説明し、文書類での説明も行い、不安や疑問点などあらわれる場合にはその都度対応致しております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を玄関に設置し、利用者様のご家族が、意見や要望を伝える事が出来る環境を作っています。又、利用者様、ご家族様のお話を傾聴し、コミュニケーションを図りながら、要望や意見等が言いやすい環境を心掛けています。	入居時に重要事項説明書にて意見箱等による申し立て、第三者委員の存在について説明している。毎月個別に便りを発送したり、職員との日常的な会話の中で利用者や家族の思いを引き出していくよう心掛けている。新型コロナ禍で体温計も非接触型に変えてほしいという意見を採用するなど、サービス向上に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議やユニット会議で意見を出し合ったり、提案する事で反映出来ています。	ユニット会議や全体会議に限らず、ユニットリーダーや管理者は普段から職員の意見や提案を聞く機会がある。年2回職員自己評価があり、個人面談にて管理者は職員の意見や要望を把握している。建物の修繕や職員数の増員など反映事例があり、職員の意向を運営に活かし、質の確保に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	向上心を持てるよう、月1回の内部研修に参加できるようにしています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回の内部研修を行っており、担当は各職員が順番で全体会議の時に発表し、勉強しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流はコロナにて出来ていません。グループ内(法人、特養、有料老人ホーム)とは密に情報交換を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に面会する事により、情報を把握しご要望に応えられるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様と面会し、ご家族様のご要望をしっかりと傾聴し、不安要望などがあれば、真摯に応えています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	早々な対応が必要な場合はしっかりと話し合いを行い、対応できるようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	御本人様と共に日常生活を協働し、声掛けにも気配りし、接しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者様を支える為に、ご家族様にも出来る限り協力して頂くと共に気楽にホームへ来て頂けるように心掛けています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご利用者様との馴染みの関係にも配慮し、日常的に行き来できるよう支援しています。	入居時のアセスメントで、本人の生活歴を把握しフェイスシートを作成している。現在、新型コロナ禍にあるため面会や自由な外出は自粛中であるが、玄関のガラス越しの対面など工夫し、関係が途切れないよう支援に努めている。また、日課の散歩を継続することで、地域社会と接点を持つ機会を継続している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	介護レベルや性格等も理解し、テーブルの位置等も考慮し、関係性も保ちながら共に生活出来るよう支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても気軽にホームへ来て頂ける様、声掛けを行っています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	御本人様から直接聴ける際はお聴きしています。利用者様1人1人の思い出やご要望に関心を持ち、少しでも多く応えられるよう検討しています。	職員は、一人ひとりと会話し思いや意向の把握に努めている。会話が困難な場合、ホワイトボードの活用やこれまでの暮らしぶりの中から、本人本位の意向を検討している。入浴介助時などリラックスした雰囲気、思いを語るが多く、その時の気持ちや表情を個人記録に記載し、職員間で情報共有と支援内容の検討に活用している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前にご家族様、御本人から今までのお話を傾聴し、又、日々のコミュニケーションにより、今迄の暮らし方の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の体調、身体の状態観察を行い、異常や異変があれば、医師、看護師に報告を行い、指示を受けています。体調や身体の状態の変化に素早く気付けるよう努力しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様、ご家族様の要望に沿えるように職員間で今後のケアと課題を話し合い、計画の作成に努めています。	業務日誌や個人の記録、ケアチェック表で介護計画の実践状況を確認する仕組みがあり、毎月のモニタリングを行っている。職員は、サービス担当者会議で利用者の言葉やニーズを基に介護目標を検討している。ただし、サービス担当者会議で把握した家族や本人の意向が介護計画書の意向部分に表われていない。	サービス担当者会議で表出した本人・家族の意向や言葉を記録し、職員が介護目標の根拠を確認することで、更なる支援の質の向上に繋がることに期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、利用者様の状況をきちんと職員1人1人が把握しケアを実施してから、その情報を元にカンファレンスを行っています。いつもと違う様子や気づきがあれば、個人記録や業務日誌に記載し、情報の共有を行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	お買い物や散歩のご要望があれば速やかに対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍ではありますが、地域の役員の方と最低限の情報交換を行い、コミュニケーションを図っています。又、散歩や買物等で積極的に地域に出掛けています。近所の方にも声をかけて頂く機会も増えています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診時には経過や生活の様子等の情報を提供し、医師からは、生活上の注意事項の指示を受け、ご利用者様が適切な医療を受けられ、健康管理や異常の早期発見が出来るように連携に努めています。	母体法人の病院受診時は、病院送迎車にて通院し、看護師が対応している。母体法人以外のかかりつけ医院や専門科の受診時は、家族対応で受診している。ホームではサマリーを家族に渡し、適切な医療を受けられるよう支援している。受診結果は母体法人とも共有し、利用者の健康管理に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師がホームに配置されており、勤務外では訪問看護との連携も行いながら、病状管理や状態変化に対応しています。業務日誌や申し送りノート等にも利用者様の情報、気づきを記録し、伝達、相談を行っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に必要適切な情報提供に努めています。病院関係者からの状況経過も定期的に聞き、情報共有しながら退院後、適切なケアに努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に利用者様、ご家族様の意向を確認し、その後も必要時に話し合い、再確認しています。重度化した場合は早い段階でご家族と主治医との話し合いを行っています。	契約時、重度化した場合等における対応の指針を説明し、看取りケア依頼・承諾書への同意を得ている。状況変化に応じ、主治医と家族で終末期の在り方について意向を確認し、意向書に同意を得ている。職員は終末期の支援について、主治医の助言と看護師のサポートを受けながら、看取りケアに取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故、災害時の対応マニュアルを作成し、定期的に勉強会を行っています。分からない事はその都度看護師へ相談し、急変時に対応できる体制を整えています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	毎月防災についての対応研修を行っています。火災を防ぐためにコンセントのほこり等、定期的に掃除点検を行っています。	毎月防災訓練を実施し、夜間想定避難訓練も実施している。現在、コロナ禍の為、消防署による立会いは自粛となっている。地域と連携し、消防団へ声掛けしている。緊急避難用に持ち出す荷物を常備し、担当者を決めている。従来消防マニュアルは整備しており、現在ホーム独自の非常災害マニュアルの作成に着手中である。	非常災害マニュアルの作成は、前回の外部評価から継続中である。ホームでは、ターミナルケアの利用者の安全確保を重視しており、長崎市の避難確保計画等を参考に更に充実したものになるよう期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入社時に守秘義務の契約書を提出し、利用者様には言葉遣いや態度に留意しながら対応しています。又、個人情報の管理は周知徹底しています。	職員は利用者的人格を尊重している。下着類は室内に干し、居室ドアは必ず閉める等プライバシーを損ねないよう支援している。トイレ誘導では羞恥心に配慮した声掛けを行っている。申し送りや個人記録記入時など、職員は情報の重要性を理解し守秘義務を徹底している。書類は事務所で管理し、写真使用の同意もある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の会話の中より、利用者様の思いや希望を汲み取り、職員が同じ支援を出来るように情報の共有を行っている。表情を読み取り、寄り添いながら思いを受け止めるよう支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な日常生活を送って頂きながらも個々のペースを大切にしている。認知症により意欲低下がみられる方に対しては、気持ちに寄り添い、ゆっくりと過ごして頂けるようにしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	こだわりや好み、これまでの習慣を尊重しながら清潔を心掛け、季節に適した衣類のアドバイスを行っています。古くなった服や下着がみられる際にはご家族に相談し、新しく購入して頂きお洒落を楽しんで頂くよう支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備、片づけは現在利用者様に手伝って頂いてませんが、1人1人の好みを把握し、食べる楽しみをいつまでも持って頂ける様支援しています。食べられない物がある場合は他の物を提供しています。	食事は、配食サービスを利用しており、職員は、嗜好品調査をもとに各利用者の好みを把握し、好みを反映した配食を依頼している。ホームでは、本人の嚥下に合わせた盛り付けやアレルギー対応、主菜の代替え等を行っている。季節や行事に合わせた特別メニューの他、利用者希望の焼肉会等、食事を楽しめるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の食事量水分量を記載し、水分が不足している時、食欲がない時は好みのものを提供し支援しています。又、個々の状態に応じて食事形態も変更しながら対応しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを行っています。歯磨きやポリドントで洗浄、消毒を支援しています。気になることがあれば歯科医往診時に相談し対応を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様の一人一人に合ったオムツ等の検討を行い、排泄チェック表を活用しトイレ誘導を行っています。	トイレで座位による排泄支援を基本とし、体調に配慮しポータブルトイレを利用することもある。排泄状況は排泄表に記録し、排泄支援の検討時に利用者毎の水分量・回数・排便などの情報を基に、排泄委員会で支援内容を検討している。パッド類の使用タイミングなど、個別に検討し利用者が快適な日常生活が過ごせるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表、熱計表を活用し、水分を十分に摂って頂ける様、お茶を飲まれない方にはカルピスやコーヒー等を促しています。便秘時は医師、看護師に相談し、指示を受けて対応しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回の入浴に努めています。体調不良の方は清拭にて対応しています。拒否がある場合は無理強ひせず時間をずらしたり、別の日に変更し入浴して頂いています。湯の温度の微調整も確認しながら行っています。	毎日午前中に入浴準備を行い、週2回を目安に入浴を支援している。入浴拒否時は、声掛けや日時を変え、無理強ひしない。車椅子利用者など状況に応じ、2人介助で入浴支援している。入浴剤、好みのシャンプー類等、入浴を楽しむ工夫がある。利用者にとって入浴は、職員と会話したり、歌を歌う等楽しい時間となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中も傾眠気味の方がおられれば居室ベッドへ誘導し、ゆっくりして頂いています。夜間は夜用のパット使用にて交換回数を減らし、睡眠の妨げにならないよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は日付、名前、何時の分かを2人で確認しています。誤薬に注意し、新しい薬の時は状態観察等も気がけて変化あれば看護師に報告を行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	全棟レク、散歩、外気浴、年間行事等、楽しんで頂けるよう、又、気分転換にもなるように支援しています。テレビ体操や塗り絵等、好きな事を支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの影響で、花見や秋祭りなど外出機会が少なくなっていますが、近所の散歩コースを変えたり、病院受診などはホーム職員で支援しています。	新型コロナ禍前は、季節毎のドライブや買い物支援を行っていたが、現在外出支援を自粛している。その中でも、日課であるホーム周辺の散歩は継続しており、車椅子やストレッチャーの利用者も一緒に散歩し、戸外の空気を楽しんでいる。今後は、状況を見ながら予防対策を取り、ドライブ等外出支援を検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームにて預り金として管理し、個別ノートに記入しています。必要な買い物があればその都度対応しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、その方合わせて電話をしたり、手紙の対応を行っています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の飾りつけや行事の写真を壁に張ったり花を飾るなど、季節感を味わって頂けるように工夫しています。各担当者が居室の掃除や整理整頓を行っており、換気にも気を付けています。	玄関に利用者全員の笑顔のスナップ写真を掲示している。利用者手作りの手芸作品を展示したところ、見た人からの「上手だね」という称赞の声があり、本人のやる気や自己尊厳感の高まりに繋がっている。中央フロアをリビングとして各居室を周りに配してあり、個室にいても人の気配を感じ取ることができる造りとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間にソファ以外にも椅子を置き、一人一人がテレビやDVDを視聴されたり、CDを聴かれたり等、楽しんで頂けるようにしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は十分なスペースを確保しており、本人様の使い慣れた物や写真をお持ちになられ、居心地よく過ごして頂けるよう工夫しています。各担当者がこまめな居室の掃除や整理整頓を行っており、換気にも気を付けています。	ソファやタンス、家族の写真、ぬいぐるみ、仏壇や位牌など、一人ひとりの好みに応じた居室空間となっている。パッド類はロッカーに保管しており人目を引くことはない。転倒などによる怪我を未然に防ぐため、必要に応じて床にウレタンマットを敷いている。職員が清掃、換気を行い、快適な居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様がしたい事はして頂き、その為の手助けをしています。ホーム内は安心して動いて頂ける様、余計な物を置かない様注意しています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270103429		
法人名	医療法人 今村		
事業所名	グループホーム桜 ひばり棟		
所在地	長崎市網場町500-1		
自己評価作成日	令和元年12月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	令和 4年 3月 14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム桜は、経営母体が医療法人の為、医療、看護面でのサービスが充実しており、入所者様が重度の状態になられても、ご家族の希望、要望により、医師、看護師、介護職が連携を取りながら、最期まで日常の生活が送れるよう、支援させていただきます。ホーム内では、入所者様一人一人が、生き生きと生活して頂くよう、日中のレクリエーション、散歩等を行い、介護予防にも力を入れています。又、好きな物を食べるという事が、生きる楽しみにつながるという観点から、通常の食事以外でも、個々の好きな食べ物、味付けに対応できるよう、努めています。「一人一人を大切に、一人一人に優しく」という職員の行動指針の元、日々のケアに努めています。□

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を理解し、1人1人を大切に、1人1人を生き生きと生活して頂けるようにチームで実践できるようにつなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に積極的に参加することで、交流を深めている。最近はコロナの影響で出来ていません		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティアの受け入れや近所を散歩する事で交流を図ることで認知症の理解を活かしています。現在はコロナで出来ていません		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービス向上を計る為、地域の民生委員、福祉総務課の方、ご家族へ現況報告を行い、また質疑応答意見交換を行うようにしています。現在は書面会議となっています		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	福祉総務課、生活福祉課とわからない点はTELにて相談しています		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員が中心となり、日々のケアの見直し、勉強会を行う事で、しないケアに取り組んでいます。施錠は、夜間のみ行っています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待防止マニュアルを作成すると共に定期的な勉強会にてケア原則を学び、防止に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修にて、プライバシー保護、職員倫理を学んでいます。また、必要とされる方がおられる場合には活用できるよう支援しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設見学や入所の際に説明し納得して頂くようにしています。また、疑問点などある場合は、つど対応しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様に、耳を傾けると共にご家族様と職員も積極的に関わる事で、コミュニケーションを図っています。定期的な家族会を行う事で意見を頂いていますが、今年は開催出来ていません。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各自の意見や発表の時間を全体会議やユニット会議に設け、反映できるように努めています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年末には、職員評価を行い、1年の振り返り、次年の目標をかかげ、管理者がアドバイスをおこなっています		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍の為外部研修への参加は出来ていません。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍の為実施出来ていません。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用者様の状態に応じ、出来る限り、思いを引き出せるよう支援している。言葉を発することが出来ない方の場合は、表情などを観察し、思いを汲みとるよう努力しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会に来られた時などに、ご家族様の希望や不安なことがないか伺ったり、ご利用者様の様子をお伝えすることで、コミュニケーションを図りより良い関係を築けるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用者様、ご家族様の気持ちを受けとめ、必要な情報を収集し、必要な支援サービスを見極めるようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物などのお手伝いを職員をともに行ったり、作業が終わったら「いつもありがとうございます」と感謝の気持ちを伝え、人生の先輩として接しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様の気持ちを第一に考え、信頼関係を築き安心して過ごせるよう支援を行っています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご利用者様が懐かしいと思ってもらえる場所へ散歩などで日常にお連れするなど、支援に努めています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	1日の中で皆さんで集まって頂き楽しく歌をうたう時間を作っています。また、座る席の場所など、より良い関係が築けるよう考慮しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終わっても、気軽に来て頂けるようにお会いした時には、お声をかけさせてもらっています。気軽にお話して頂けるように努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	お一人お一人がその人らしさを尊重し支援できるよう、言動や表情より意向を汲み取るよう心がけています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様やご家族様との会話や情報をもとに、安心して生活できるよ環境作り、どのように生活されてきたのかなどを職員皆で情報を共有していきます。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝、起床時にバイタル測定し、異常の早期発見に努めています。何かあった場合は、医師、看護師に相談、指示のもと対応しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者様、ご家族様の意向をお聞きし、各専門職と連携をとり、現状に即した計画を作成し、それに沿ったケアを行っています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	通院、買物、散歩など、出来る限り、本人様の要望等にも応えるようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナ禍と言うこともあり、面会できない場合でも、電話や状況報告などでご利用者様の状況をお伝えし、心配されている事などは伺い、より良い関係を築けるよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在、コロナ禍のため出来ていません。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけの医療関係、医師と密に情報交換し、状態把握し、適切な対応が来ている。また、定期的な受診、往診を実施しています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日、朝の申し送り、日中の関わりの中で、状態把握を行い、業務日誌に記録、伝達し看護師と連携しながら支援行っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、情報交換、相談等を密に行い、安心して、治療でき、退院できるように努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合、看取りの内部研修を行い、十分な看取りケアが行えるようスキルUPを図り、教育を行っています。身体の状態変化に応じて、再度看取り確認を行います。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時事故対応のマニュアルがあり、定期的に研修、訓練を行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	年2回の避難訓練と毎月ミーティング時に消防訓練を実施。記録を行います。緊急時の対応の連絡網を作成して協力体勢を整えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報保護法厳守について、ご家族様の同意書を作成し、職員は厳守の意をもって接し、言葉使い、態度に普段より配慮し、プライバシー保護に努めています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様の状態に応じ、出来る限りご利用者様の希望や声を引き出せるように支援し、言葉を発する事が出来ない方も表情等、観察し思いを少しでも汲み取れる様努力しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様の言葉に耳を傾け出来る限り希望に添えるよう努力しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出張美容師の方に来て頂いております。ご利用者様やご家族様の承諾があれば、職員も行います。身だしなみにきちんと気を配り支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者様が出来る範囲で、無理のない程度でお手伝いをお願いしています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、飲水の摂取量の確認を記録行い、ご利用者様の状態にあった食事形態で対応し、嗜好にも配慮し対応しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行い、保清に努めます。月2回歯科往診により何か異常があれば対応して頂いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様の排泄チェック表をつけ、排泄パターンを把握し、トイレでの排泄を行い、日中、夜間の尿量に合わせて、パットを使用しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量のチェックをしながら、水分補給や体操など行い、体を動かしています。排泄チェックを行い、看護師へ申し送り、指示を仰ぎます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者様の希望に合わせ、最低週2回の入浴を行っています。体調や気分不良で入浴出来ない時には、曜日や時間を変更したり、清拭を行なっています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様が安心して、休めるよう努めています。季節に合わせ寝具の用意、照明の明るさなどを調節しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬をセットする時に、スタッフ2人で確認し、服用時には、名前、日付、朝、昼、夕、寝る前の呼称をし、スタッフ2人で行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーションを楽しんだり、体操をしたり、DVDカラオケにて歌を歌い楽しんで頂いています。天気の良い日には、日光浴、散歩等で気分転換を図っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族様の協力もあり、体調なども考えながら、天気の良い日には、散歩や買い物へお連れしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々に預かり、管理し、本人様が希望されるもの、必要なものは代行し、買ってきてお渡ししています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様が希望された際には、その都度、対応を行っています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じ、飾りなどで、季節を感じて頂けるように工夫しています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様が好きな場所に座って頂き、会話をされたり、テレビなどを見て、ゆっくり過ごされています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様が好んで使っていた物をお持ち頂き、居心地良く過ごして頂けるよう工夫しています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご本人様が出来る事、わかることを活かし、ご本人様のペースに合ったケアに努め、安心安全な環境作りを心掛けています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270103429		
法人名	医療法人たちばなバイクリニック		
事業所名	グループホーム桜 めじろ棟		
所在地	長崎市網場町500-1		
自己評価作成日	令和3年1月14日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	令和 4年 3月 14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) <input type="radio"/>	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) <input type="radio"/>
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) <input type="radio"/>	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) <input type="radio"/>
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) <input type="radio"/>	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) <input type="radio"/>
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) <input type="radio"/>	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) <input type="radio"/>
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) <input type="radio"/>	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う <input type="radio"/>
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) <input type="radio"/>	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う <input type="radio"/>
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) <input type="radio"/>		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を共有し、目に見える所に掲示し毎朝のミーティングで声に出して確認して実施しています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の為、交流は出来ませんが学童の子供達から季節のメッセージ入りの作品を頂きました。毎日、散歩では近所の方とお逢いした時やお店へ出かけた時などは積極的に挨拶を行っています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍の為、交流が制限され実施できませんでした。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1回開催となっておりますが、新型コロナウイルス感染予防対策の為、書面での現況報告・行事の報告等を行い、連絡を取り書面にての助言・質疑応答を頂きサービス向上に活かしています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	不明な事などは、市町村担当へ連絡を取りアドバイスを頂いています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の指針を掲示し、勉強会での共有を行い身体拘束をしないケアに取り組んでいます。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止マニュアルを作成し、虐待防止法・ケアの原則を念頭におき、努めています。日頃の言葉づかいにはスタッフ間でも意識を向けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	めじろ棟では1名の方が成年後見人制度を利用されており、不明な事ある場合は、お尋ねさせて頂いています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設見学・入所前に契約内容の説明を行いまた書類での説明も行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置しています。重要事項説明書に苦情受付・内部外部の窓口を記載しています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の全体会議・ユニット会議を開催していましたが、コロナ禍の為、書面で行っていました。令和3年10月頃から感染予防を行いながら行っています。意見・提案・情報を共有しています		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	コロナ禍の為、ここ1～2年間は外部の研修など参加できませんでした。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修とし書面で行っています。令和3年10月からは、全体ミーティングの時に行っています。外部研修は参加できていません。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍の為、交流できませんでした。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用の問い合わせなどがあった場合は見学・面談などを行い心配事、不安など取り除き支援に必要な情報把握をし、要望に添えるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時や電話などで家族様の希望・不安に思われている事などを伺いその際に、利用者様の様子をお伝えしコミュニケーションを図り良い関係を築けるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様やご家族様のお気持ちをしっかり受け止めその時に、必要な支援サービスを見極めるように努力しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の気持ちを最優先に考え、時間をかけて信頼関係深めていけるように努力しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様と親近感・信頼感をもって話せるような関係づくりを心掛けています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様の馴染みの関係を考慮し日常的に行き来できるように努めて行きます。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日の全体レクリエーションなどで他者様とのかかわる機会を提供し、コロナが終息し行事なども家族様や外部の方とも交流が可能になれば今まで通り、交流を深めていけるように支援します。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	いつでも気軽に色々な相談をしてもらえるような環境・関係性を築けるように努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で個別に話を聞きその希望・意向を知り、その人らしさを尊重し、困難な場合は動作・表情意向を汲み取るように努めています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人様やご家族様と情報交換を行い、これまでの情報共有を行い、サービス利用の経過の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタル測定や健康チェックを行い、異常の早期発見・対応に努めています。利用者様の有する能力で出来ることを増やす為に、現状の把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様ご家族様の意向を聞き、スタッフ間での日常生活での気づきの情報交換しながら各専門職・関係者と連携をとり介護計画を作成しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに基づいて日常の様子、実践結果・気づきなどを記録に記入し、職員間で日々の情報交換しながらケアプランの見直しなどに活用しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナ禍の為家族様との直接の交流が難しい分電話やお便りにて状況報告しています。他通院や買い物・散歩などは対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	可能な限り地域の行事には参加し地域とのつながりを持ちながら利用者様に楽しんで頂けるように支援していきます。ここ1～2年はコロナ為の行事に参加できませんでした。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は本人様・ご家族様のご要望を聞き以前からのかかりつけ医療機関・医師との連携を取りながら継続して行っています。現在はほとんどがたちばなベイクリニックにて対応して頂いています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師とは毎朝、申し送り・ノート・業務日誌などにて報告・伝達しています。日常でも変化があればすぐに相談し指示受けしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、病院関係者との情報共有と交換・相談を行い早期に退院できるように努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合、対応方針や看取りケアについて早い段階にて家族様の意向聞き説明しています。心身状態の変化に応じて看取りケアを行っています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者様の急変・事故時の対応としてマニュアルがあり定期的に勉強会を行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	避難訓練などには、特に新人職員には参加してもらい実践を行っています。全体会議の際、消防委員による勉強会を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報保護法について、家族様の同意書を作成・職員は尊厳の意をもって接し言葉使いや態度に配慮しプライバシー保護に努めています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の個々の状態・状況に応じて支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り利用者様の要望・希望に添えるように支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	3か月に1回美容師の方に訪問して頂いています。時には職員にて対応する事もあります。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を楽しんで頂けるように利用者様に合う食事形態にて召し上げて頂いたり、月1程度は晩酌の日(刺身・ノンアルコール)を設けたり、年末には忘年会を開催し今年利用者様の希望で焼き肉パーティーを行い大変喜ばれていました。ホームの食事を食べれない方には職員が準備し提供しています		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量・水分摂取量など把握し、栄養管理・バランスを考え提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎回食後には口腔ケアを行っています。歯科往診へ来て頂いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの日々の排泄を排泄表に記録し、排泄のパターンの把握・トイレ誘導を行っています。できる限り家族様にもおむつ代が軽減できるように努めています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表・熱計表(食分量・水分量)を活用し個々の排泄パターンの管理・チェックを行っています。便秘時は医師・看護師に相談し指示を受けし対応しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回の入浴で、入浴剤を入れて気分転換を図っています。希望があればいつでも入浴できるように対応しています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠できるように日中の活動を充実したり、安眠できるようにパット(夜間用)を使用し安眠対応し体位交換が必要な方は2Hおきに体交を行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々に管理し誤薬しないように、ケースに入れる際の確認チェックと、服用する前に呼称し服薬を行っています。最善の注意をはらって行っています。職員は利用者様がどのような薬を服用されているか念頭におき、服薬介助に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	コロナ禍の為、家族様との面会や外出の機会が思うようにできなかった分、毎日散歩をできる限り行ったり、棟内レクにて楽しんで頂けるように心掛けて行ってます。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	最近はコロナも落ち着いてきましたので、近くのコンビニやスーパーにも買い物へ同行しています。全体レクレーションも人数制限を行いながら月曜日～金曜日まで1時間、他者様との関わりを楽しんで頂けるように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理は個別にお預かりノートに記載し、出し入れは管理者が行っています。月に1回他の管理者へ金銭の照合確認を行っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	コロナ禍の為面会が出来なかった頃は、電話で話されたあり、現況報告にてお伝えしたり、元気に過ごされている写真を送らせて頂きました。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関・居室に写真を掲載したり季節ごとに飾り付けを行い、季節感を感じられるように工夫しています。毎日の掃除・換気なども徹底しています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	基本好きなように過ごして頂いています。日中はリビングで雑談されたり・TV・DVDなどを観られています。居室で過ごされている方にはCDなどをかけたり出来る限り訪室しコミュニケーションを図っています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、馴染みの物をもってきて頂けるようなスペースあり、利用者様の使い慣れた物をもって来て頂いています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者に様自由に過ごして頂けるように利用者様にあった安全な環境づくりに努めています。		